

PCT/JP 00/03331

日 本 国 特

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

許 庁 JUN 2000 24.05.00
PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

JP00/03331
1999年12月 3日

出 願 番 号
Application Number:

平成11年特許願第345354号

出 願 人
Applicant (s):

ソニー株式会社

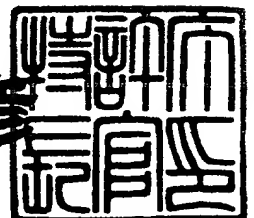
**PRIORITY
DOCUMENT**

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 4月 7日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



出証番号 出証特2000-3024851

【書類名】 特許願

【整理番号】 9900927108

【提出日】 平成11年12月 3日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04L 12/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

 【氏名】 佐藤 真

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

 【氏名】 嶋 久登

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

 【氏名】 佐藤 直之

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

 【氏名】 堀口 麻里

【特許出願人】

 【識別番号】 000002185

 【氏名又は名称】 ソニー株式会社

 【代表者】 出井 伸之

【代理人】

 【識別番号】 100080883

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 松隈 秀盛

【電話番号】 03-3343-5821

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 平成11年特許願第260625号

【出願日】 平成11年 9月14日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 平成11年特許願第144021号

【出願日】 平成11年 5月24日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012645

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9707386

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 機器データ伝送方法及び伝送装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 所定のバスラインに接続された機器に関するデータを、上記バスラインを介して伝送する機器データ伝送方法において、

上記機器の内部で接続可能な接続情報を所定のテーブルとして一括して保持し

、
その保持したテーブル内の全て又は一部の接続情報を、上記バスラインを介した所定のフォーマットのプロトコルの伝送に基づいて、他の機器に伝送するようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 2】 請求項 1 記載の機器データ伝送方法において、

上記テーブルに保持された接続情報は、機器が備える入力部又は出力部と内部の機能処理部との接続に関する情報と、機器が入力又は出力するフォーマットに関する情報とを含むようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 3】 請求項 2 記載の機器データ伝送方法において、

上記テーブルに保持された入力部又は出力部と機能処理部との接続に関する情報は、同一データを複数の接続で同時に伝送できることに関する情報を含む

機器データ伝送方法。

【請求項 4】 請求項 2 記載の機器データ伝送方法において、

上記テーブルに保持された接続情報は、入力又は出力するフォーマットを他のフォーマットに変換する機能に関する情報を更に含むようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 5】 請求項 2 記載の機器データ伝送方法において、

上記テーブルに保持された情報で示される入力部又は出力部は、上記バスラインに接続される入力部又は出力部以外のものを含む

機器データ伝送方法。

【請求項 6】 請求項 2 記載の機器データ伝送方法において、

上記所定のフォーマットのプロトコルの伝送により、機器内の現在の接続状態に関する情報を、他の機器に伝送するようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 7】 請求項 6 記載の機器データ伝送方法において、

上記現在の接続状態を変更したとき、他の接続に影響があるとき、そのことに関する情報を更に伝送するようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 8】 所定のバスラインに接続された第 1 の機器に関するデータを、上記バスラインを介して第 2 の機器に伝送する機器データ伝送方法において、

所定のフォーマットのプロトコルで、上記第 1 の機器が備える入力部又は出力部と、内部の機能処理部とを指定するデータを、上記第 2 の機器から伝送することとで、

上記第 1 の機器の該当する入力部又は出力部と、内部の機能処理部との接続のステータスに関するデータを、上記第 2 の機器に伝送するようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 9】 請求項 8 記載の機器データ伝送方法において、

該当する接続で伝送されるデータの信号源を特定するデータについても、上記第 2 の機器に伝送するようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 10】 請求項 9 記載の機器データ伝送方法において、

上記信号源が複数存在するとき、その複数の信号源についてのデータを伝送するようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 11】 請求項 8 記載の機器データ伝送方法において、

上記入力部又は出力部と機能処理部とを指定するデータは、その入力部又は出力部と機能処理部との接続に関する設定を行うときのデータと共通のデータ構造とした

機器データ伝送方法。

【請求項 12】 所定のバスラインに接続された所定の機器に関するデータを、

上記バスラインを介して他の機器に伝送する機器データ伝送方法において、

上記所定の機器の特定の出力部からの映像の出力状態に関するデータを、上記所定の機器から出力すると共に、その映像の出力状態に関するデータに、その映像に特定の映像が重畳されていることを示すフラグを付加するようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 1 3】 請求項 1 2 記載の機器データ伝送方法において、

上記フラグで示される特定の映像は、オンスクリーンディスプレイの映像である

機器データ伝送方法。

【請求項 1 4】 所定のバスラインに接続された所定の機器に関するデータを、上記バスラインを介して他の機器に伝送する機器データ伝送方法において、

上記所定の機器の特定の出力部からのデータの出力状態に関するデータを、上記所定の機器から出力すると共に、そのデータの出力状態に関するデータの特定フィールドで、その映像の加工状態を示すようにした

機器データ伝送方法。

【請求項 1 5】 請求項 1 4 記載の機器データ伝送方法において、

上記特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像データの圧縮を解いた状態を示すデータとした

機器データ伝送方法。

【請求項 1 6】 請求項 1 4 記載の機器データ伝送方法において、

上記特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像を重畳して表示させるオンスクリーンディスプレイの状態を示すデータとした

機器データ伝送方法。

【請求項 1 7】 請求項 1 4 記載の機器データ伝送方法において、

上記特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像が混合された状態を示すデータとした

機器データ伝送方法。

【請求項 1 8】 請求項 1 4 記載の機器データ伝送方法において、

上記特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像データの信号フォー

マットが変換された状態を示すデータとした

機器データ伝送方法。

【請求項 19】 請求項 14 記載の機器データ伝送方法において、

上記特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像に対して特別な加工が施された状態であることを示すデータとした

機器データ伝送方法。

【請求項 20】 請求項 14 記載の機器データ伝送方法において、

上記特定フィールドのデータで示される加工状態は、信号源の映像と同一である状態であることを示すデータとした

機器データ伝送方法。

【請求項 21】 所定のバスラインを介して他の機器と接続可能な伝送装置において、

装置の内部で接続可能な接続情報を一括して所定のテーブルとして保持する記憶手段と、

上記記憶手段が記憶した接続情報の一部又は全部を、上記バスラインを介して受信した所定のフォーマットのプロトコルに基づいて、上記バスラインに送出する伝送制御手段とを備えた

伝送装置。

【請求項 22】 請求項 21 記載の伝送装置において、

上記記憶手段に保持された接続情報は、機器が備える入力部又は出力部と内部の機能処理部との接続に関する情報と、機器が入力又は出力するフォーマットに関する情報とを含むようにした

伝送装置。

【請求項 23】 請求項 22 記載の伝送装置において、

上記記憶手段に保持された入力部又は出力部と機能処理部との接続に関する情報は、同一データを複数の接続で同時に伝送できることに関する情報を含む

伝送装置。

【請求項 24】 請求項 22 記載の伝送装置において、

上記記憶手段に保持された接続情報は、上記入力又は出力するフォーマットを

他のフォーマットに変換する機能に関する情報を更に含むようにした
伝送装置。

【請求項 25】 請求項 22 記載の伝送装置において、

上記記憶手段に保持された情報で示される入力部又は出力部は、上記バスラインに接続される入力部又は出力部以外のものを含む
伝送装置。

【請求項 26】 請求項 22 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段は、所定のフォーマットのプロトコルの伝送により、機器内の現在の接続状態に関する情報を、他の機器に伝送するようにした
伝送装置。

【請求項 27】 請求項 26 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が伝送する情報には、現在の接続状態を変更したとき、他の接続に影響があるとき、そのことに関する情報を含むようにした
伝送装置。

【請求項 28】 所定のバスラインを介して他の機器と接続可能な伝送装置において、

装置が有する入力部又は出力部と、内部の機能処理部とを指定するデータを、上記バスラインを介して受信したとき、該当する入力部又は出力部と、内部の機能処理部との接続のステータスに関するデータを上記バスラインに送出する伝送制御手段を備えた

伝送装置。

【請求項 29】 請求項 28 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段は、該当する接続で伝送されるデータの信号源を特定するデータについても、上記バスラインに送出するようにした
伝送装置。

【請求項 30】 請求項 29 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段は、上記信号源が複数存在するとき、その複数の信号源についてのデータを伝送するようにした
伝送装置。

【請求項 3 1】 所定のバスラインを介して他の機器と接続可能な伝送装置において、

装置が有する出力部からの映像データの出力状態に関するデータを、上記バスラインに送出すると共に、その映像データに特定の映像データが重畳されていることを示すフラグを付加する伝送制御手段を備えた

伝送装置。

【請求項 3 2】 請求項 3 1 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が付加するフラグで示される特定の映像データは、オンスクリーンディスプレイの映像データである

伝送装置。

【請求項 3 3】 所定のバスラインを介して他の機器と接続可能な伝送装置において、

装置が有する出力部からのデータの出力状態に関するデータを、上記バスラインに送出すると共に、そのデータの出力状態に関するデータの特定フィールドに、データの加工状態を示すデータを配置する伝送制御手段を備えた

伝送装置。

【請求項 3 4】 請求項 3 3 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が配置する特定フィールドのデータは、映像データの圧縮を解いた状態を示すデータとした

伝送装置。

【請求項 3 5】 請求項 3 3 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が配置する特定フィールドのデータは、映像を重畳して表示させるオンスクリーンディスプレイの状態を示すデータとした

伝送装置。

【請求項 3 6】 請求項 3 3 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が配置する特定フィールドのデータは、映像が混合された状態を示すデータとした

伝送装置。

【請求項 3 7】 請求項 3 3 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が配置する特定フィールドのデータは、映像データの信号フォーマットが変換された状態を示すデータとした
伝送装置。

【請求項 3 8】 請求項 3 3 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が配置する特定フィールドのデータは、映像に対して特別な加工が施された状態であることを示すデータとした
伝送装置。

【請求項 3 9】 請求項 3 3 記載の伝送装置において、

上記伝送制御手段が配置する特定フィールドのデータは、信号源の映像と全く同一である状態であることを示すデータとした
伝送装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば I E E E 1 3 9 4 方式のシリアル通信バスで接続された機器の間で機器に関するデータを伝送する場合に適用して好適な機器データ伝送方法及び伝送装置に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

I E E E 1 3 9 4 方式のシリアル通信バスを用いたネットワークを介して、相互に情報を伝送することができる A V 機器が開発されている。このネットワークにおいては、所定のコマンド (A V / C Command Transaction Set : 以下 A V / C コマンドと称する) を伝送することにより、ネットワークに接続されている A V 機器を制御することが可能である。A V / C コマンドの詳細については、<http://www.1394TA.org> に公開されている。

【0 0 0 3】

I E E E 1 3 9 4 方式のバスで接続された機器の間で、A V / C コマンドの伝送で制御を行う状態の例を図 1 に示すと、例えば図 1 の A に示すように、I E E E 1 3 9 4 方式のバスを構成するケーブル 1, 2 を介して、テレビジョン受像機

10とビデオカメラ20とビデオテープデッキ（VCR）30とを接続する。ビデオカメラ20は、磁気テープなどに記録し再生する機能も備えている。そして、テレビジョン受像機10に付属したリモートコントロール装置11で、テレビジョン受像機10の制御だけでなく、接続されたビデオカメラ20とビデオテープデッキ30の制御についても行えるようにすることが考えられる。

【0004】

この場合、各機器がAV/Cコマンドに対応している場合には、各機器が有する機能に関するデータの詳細を記憶させたディスクリプタと称される記憶部を備える。そして、そのディスクリプタのデータを所定のコマンドの伝送で他の機器から読出すことで、バスで接続された機器がどのような機能の機器で、どのような制御が可能であるか判断できる。

【0005】

図1の例では、まずテレビジョン受像機10からの所定のコマンドの伝送で、バスに接続された各機器の機能を調べる処理を行い、その結果として、例えば図1のBに示すように、テレビジョン受像機10の画面に、接続された機器20, 30の機種名や、その機器が備える機能の名前などを表示させる。そして、図1のCに示すように、リモートコントロール装置11などの操作で、その表示画面上での機器や機能の選択により、その選択された機能を制御するコマンドが、バスを介して該当する機器（ここではビデオカメラ20）に伝送されて、その機器の制御が可能になる。具体的には、例えばビデオカメラ20から再生した映像をバス1に送出させて、テレビジョン受像機10でその映像データを受信して、受信させたり、或いはビデオテープデッキ30で映像データを受信して、記録させるなどの動作を、統一的に制御することが可能になる。

【0006】

ここで、従来のAV/Cコマンドによりバスで接続された機器の機能などを調べる処理の手順を、図28及び図29を参照して説明する。ここでは、IEEE 1394方式のバスで接続されたビデオテープデッキ（VCR）50の機能を、そのバス上からのコマンドの伝送で調べるものとする。

【0007】

まず、相手の機器（以下ここではコントロール機器と称する）は、機器 50 のタイプを調べるために、ユニットインフォステータスコマンド [UNIT INFO status command] を送り、デバイス (UNIT) のタイプに関するデータのレスポンスを得て、機器 50 全体が VCR ユニットであると判る。また、ユニット内の各機能単位の各部 (サブユニット) を調べるために、サブユニットインフォステータスコマンド [SUBUNIT INFO status command] を送り、サブユニット (SUBUNIT) のタイプに関するデータのレスポンスを得て、チューナサブユニット 51 と記録再生サブユニット (VCR サブユニット) 61 を備えることが判る。図 28 の A は、このユニットとサブユニットが判った状態を示す図である。

【0008】

次に、プラグインフォステータスコマンド [UNIT INFO status command] をユニットに対して送り、デバイスが備える入力プラグ 71, 72, 73, 74 と出力プラグ 81, 82, 83 の数に関するデータのレスポンスを得る。また、サブユニットが備えるプラグを調べるプラグインフォステータスコマンド [SUBUNIT INFO status command] をサブユニットに対して送り、各サブユニット 51, 61 が備える入力プラグ 52, 53, 62 と出力プラグ 54, 63 の数に関するデータのレスポンスを得る。図 28 の B は、この入力プラグ及び出力プラグが判った状態を示す図である。

【0009】

次に、プラグシグナルフォーマットステータスコマンド [PLUG SIGNAL FORMAT status command] をユニットに対して送り、ユニットの各プラグが扱うフォーマットに関するデータのレスポンスを得る。図 28 の C は、このプラグ毎のフォーマットが判った状態を示す図である。

【0010】

次に、コネクションステータスコマンド [CONNECTIONS status command] をユニットに送り、ユニットの中で現在有効な結線情報を調べる。このコマンドに非対応の場合には、コネクトステータスコマンド [CONNECT status command] を送り、プラグ毎にどのプラグとつながっているか 1 つ 1 つ調べる。更に、コネクトインクワイリィコマンド [CONNECT inquiry command] を送り、ユニット内での

可能な結線を調べる。図 29 の A は、現在の接続状態を示す図であり、図 29 の B は、ユニット内で接続可能な結線を示す図であり、図 29 の C は、サブユニット間での可能な結線を示す図である。

【0011】

このようにしてそれぞれの状態のコマンドを送って、それぞれのレスポンスをもらうことで、バスに接続された機器に関する状態をコントロール機器で判断できるようにする。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、従来の A/V/C コマンドに対応した機器で、このように機器の状態を調べるためには、該当する機器に、多数のコマンドを送る必要があり、調べる手順が複雑で手間と時間がかかる問題があった。また、フォーマットに関しては未知のものを調べる方法がなかった。

【0013】

また、デバイス（ユニット）の構成には多様な可能性があり、汎用的に調べるためには無駄な問い合わせが多く存在する問題があった。さらに、IEEE 1394 のバスに接続されるプラグ以外の外部入力プラグや外部出力プラグについては、従来のディスクリプタでは判断できない問題があった。

【0014】

さらに、機器の内部で存在し得る複数の結線についての判断をしたとき、その複数の結線が同時に存在し得るのか、或いは切換えられてしまう結線であるのか、などの判断が従来の処理では不可能であった。また、各サブユニット内で扱う複数のデータに関連性がある場合（例えばオーディオデータとそのオーディオに付随するテキストデータなど）に、それらの処理が並行して可能かなどの判断についても不可能であった。

【0015】

本発明の目的は、IEEE 1394 方式などのバスで接続された機器の間で、各機器に関するデータの収集が効率良く行えるようにすることにある。

【0016】

【課題を解決するための手段】

第 1 の発明の機器データ伝送方法は、所定のバスラインに接続された機器に関するデータを、バスラインを介して行う機器データ伝送方法において、機器の内部で接続可能な接続情報を所定のテーブルとして一括して保持し、その保持したテーブル内の全て又は一部の接続情報を、バスラインを介した所定のフォーマットのプロトコルの伝送に基づいて、他の機器に伝送するようにしたものである。

【0 0 1 7】

第 2 の発明の機器データ伝送方法は、所定のバスラインに接続された第 1 の機器に関するデータを、上記バスラインを介して第 2 の機器に伝送する機器データ伝送方法において、所定のフォーマットのプロトコルで、第 1 の機器が備える入力部又は出力部と、内部の機能処理部とを指定するデータを、第 2 の機器から伝送することで、第 1 の機器の該当する入力部又は出力部と、内部の機能処理部との接続のステータスに関するデータを、第 2 の機器に伝送するようにしたものである。

【0 0 1 8】

第 3 の発明の機器データ伝送方法は、所定のバスラインに接続された所定の機器に関するデータを、上記バスラインを介して他の機器に伝送する機器データ伝送方法において、所定の機器の特定の出力部からの映像の出力状態に関するデータを、所定の機器から出力すると共に、その映像の出力状態に関するデータに、その映像に特定の映像が重畳されていることを示すフラグを付加するようにしたものである。

【0 0 1 9】

第 4 の発明の機器データ伝送方法は、所定のバスラインに接続された所定の機器に関するデータを、上記バスラインを介して他の機器に伝送する機器データ伝送方法において、所定の機器の特定の出力部からの出力状態に関するデータを、所定の機器から出力すると共に、その出力状態に関するデータの特定フィールドで、そのデータの加工状態を示すようにしたものである。

【0 0 2 0】

また第 1 の発明の伝送装置は、所定のバスラインを介して他の機器と接続可能

な伝送装置において、装置の内部で接続可能な接続情報を一括して所定のテーブルとして保持する記憶手段と、記憶手段が記憶した接続情報の一部又は全部を、バスラインを介して受信した所定のフォーマットのプロトコルに基づいて、バスラインに送出する伝送制御手段とを備えたものである。

【 0 0 2 1 】

第 2 の発明の伝送装置は、所定のバスラインを介して他の機器と接続可能な伝送装置において、装置が有する入力部又は出力部と、内部の機能処理部とを指定するデータを、バスラインを介して受信したとき、該当する入力部又は出力部と、内部の機能処理部との接続のステータスに関するデータをバスラインに送出する伝送制御手段を備えたものである。

【 0 0 2 2 】

第 3 の発明の伝送装置は、所定のバスラインを介して他の機器と接続可能な伝送装置において、装置が有する出力部からの映像データの出力状態に関するデータを、上記バスラインに送出すると共に、その映像データに特定の映像データが重畳されていることを示すフラグを付加する伝送制御手段を備えたものである。

【 0 0 2 3 】

第 4 の発明の伝送装置は、所定のバスラインを介して他の機器と接続可能な伝送装置において、装置が有する出力部からのデータの出力状態に関するデータを、上記バスラインに送出すると共に、そのデータの出力状態に関するデータの特定フィールドに、データの加工状態を示すデータを配置する伝送制御手段を備えたものである。

【 0 0 2 4 】

第 1 の発明によると、テーブルに保持された接続情報を所定のプロトコルにより読出すことで、バスで接続された機器の情報が得られる。

【 0 0 2 5 】

第 2 の発明によると、機器の入力部又は出力部と機能処理部とを直接的に指定することで、その機器の詳細な状態に関する情報が得られるようになる。

【 0 0 2 6 】

第 3 の発明によると、機器から出力される映像の出力状態のデータのフラグで

、その映像にオンスクリーンディスプレイなどの付加情報の映像が重畳されていることに関する情報が得られるようになる。

【0027】

第4の発明によると、機器から出力されるデータの出力状態のデータの特定フィールドで、そのデータの加工状態に関する情報が得られるようになる。

【0028】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の第1の実施の形態を、図1～図14を参照して説明する。

【0029】

まず、本発明を適用したネットワークシステムの構成例について、図1を参照して説明する。このネットワークシステムは、デジタル通信制御バスである IEEE 1394 方式のシリアルデータバス（以下単にバスと称する）を介して、複数台の機器が接続してある。図1では、3台のAV機器10、20、30をバス1、2で接続した例を示してある。バス1、2に接続される機器としては、ここではそれぞれが IEEE 1394 方式のバスを接続するための端子を備えた機器としてあり、テレビジョン受像機10とビデオカメラ20とビデオテープデッキ（VCR）30とを接続する。ビデオカメラ20は、磁気テープなどに記録し再生する機能も備えている。そして、テレビジョン受像機10に付属したリモートコントロール装置11で、テレビジョン受像機10の制御だけでなく、接続されたビデオカメラ20とビデオテープデッキ30の制御についても行えるようにする。

【0030】

なお、ここではバス1に接続されている各機器10、20、30は、ユニットと呼ばれており、ユニット間においては、AV/C Command Transaction SetのAV/C Digital Interface Command Set General Specification（以下AV/Cと称する）で規定されているディスクリプタ（Descriptor）を用いて、各ユニットに記憶されている情報を相互に読み書きして、制御することが可能である。AV/Cの詳細については、<http://www.1394TA.org> に公開されている。また、ユニットが有するそれぞれの機能はサブユニットと呼ばれている。また、本例の場合には

、各機器は、その機器の内部で接続可能な接続情報に関するディスクリプタを備える。このディスクリプタの詳細については後述する。

【0031】

バス1に接続された各ユニットはノード (node) と呼ばれ、ノードIDが設定しており、そのノードIDによりバス上へのデータの発信元及び受信先が特定される。このノードIDは、バス1への新たな機器の接続があった場合や、或いは接続されていた機器が外されたことを検出したとき、バスリセットがかかって、再度ノードIDを設定し直す処理が行われる。従って、バスリセットが発生したときには、各機器のノードIDが変化する可能性がある。

【0032】

次に、各機器10, 20, 30を接続したIEEE1394方式のバス1, 2でのデータ伝送状態について説明すると、各機器における信号の伝送は、例えば図2に示すように、所定の通信サイクル (例えば125 μ sec) 毎に時分割多重によって行われる。そして、この信号の伝送は、サイクルマスタと呼ばれる機器 (バス1, 2上の任意の1台の機器) が通信サイクルの開始時であることを示すサイクルスタートパケットをバス上へ送出することにより開始される。なお、サイクルマスタは、バスを構成するケーブルに各機器を接続したとき等に、IEEE-1394で規定する手順により自動的に決定される。

【0033】

1通信サイクル中における通信の形態は、ビデオデータやオーディオデータなどのリアルタイム性を必要とするデータを伝送するアイソクロナス伝送 (Iso伝送) と、制御コマンドや補助的なデータなどを確実に伝送するアシンクロナス伝送 (Async伝送) の2種類の伝送が行われる。各通信サイクル中では、アイソクロナス伝送用のIsoパケットが、アシンクロナス伝送用のAsyncパケットより先に伝送される。1通信サイクル中の各Isoパケットには、それぞれ個別のチャンネル番号1, 2, 3...nを付与して、複数のIso伝送データを区別できるようにしてある。Isoパケットの通信が終了した後、次のサイクルスタートパケットまでの期間が、Asyncパケットの伝送に使用される。従って、Asyncパケットが伝送できる期間は、そのときのIsoパケットの伝

送チャンネル数により変化する。また、I s o パケットは、1 通信サイクル毎に予約した帯域（チャンネル数）が確保される伝送方式であるが、受信側からの確認は行わない。A s y n c パケットで伝送する場合には、受信側からアクノリッジメント（A c k）のデータを返送させて、伝送状態を確認しながら確実に伝送させる。

【0 0 3 4】

次に、本例の構成にてバスに接続された1 台の機器から、他の機器の機能を調べる場合に必要な、各機器（ユニット）が保持するテーブルの構成について説明する。本例においては、ユニットプラグ毎に、対応している結線とその結線中に流れる信号フォーマットをリストアップし、テーブルにして記憶する。ここでは、各機器（ユニット）が持つ送信（Source）、受信（Destination）、信号変換（Transformation）の3 つに分けたテーブルとしてあり、それぞれがA V / C コマンドに基づいたディスクリプタを構成する。

【0 0 3 5】

図3、図4、図5は、機器（ユニット）1 0 0 の実際の構成と、それに対応したそれぞれの機能をリストアップしたものを示す図である。ここでユニット1 0 0 は、3 つのサブユニット1 1 1、1 1 2、1 1 3 を備えて、出力プラグとして、I E E E 1 3 9 4 方式のバスに接続される出力プラグ1 2 1、1 2 2、1 2 3 と、他の方式用のフォーマットの出力プラグ1 2 4 を備える。また入力プラグとして、I E E E 1 3 9 4 方式のバスに接続される入力プラグ（iPCR）1 3 1、1 3 2、1 3 3 と、他の方式用のフォーマットの入力プラグ1 3 4 を備える。なお、I E E E 1 3 9 4 方式のバスに接続される出力プラグの内の2 つのプラグ（oPCR）1 2 1、1 2 2 は、アイソクロナス転送用のプラグであり、他のプラグ（oAPR）1 2 3 は、アシンクロナス転送用のプラグである。また、I E E E 1 3 9 4 方式のバスに接続される入力プラグの内の2 つのプラグ（iPCR）1 3 1、1 3 2 は、アイソクロナス転送用のプラグであり、他のプラグ（iAPR）1 3 3 は、アシンクロナス転送用のプラグである。これらのI E E E 1 3 9 4 方式のバスに接続されるプラグは、仮想的に構成されたプラグであり、物理的に3 個端子が存在するものではない。

【0036】

図3は、送信 (Source) の構成 (即ち各サブユニットからの信号の出力経路) について示してある。図4は、受信 (Destination) の構成 (即ち各サブユニットへの信号の入力経路) について示してある。図5は、ユニット100内で実現できる信号変換 (Transformation) について示してある。

【0037】

次に、リストアップしたデータの詳細について説明する。まず、3つのテーブルを通した通し番号であるエントリーID (entry ID) を付与してある。また、結線に関連性がある番号の通し番号として、グループID (group ID) が付与してある。ここでの関連とは、次の3つの場合がある。

1. 同一の信号が複数の結線を通して流れる場合。例えば、デジタル記録されたコンテンツを、バス上にデジタルで出力すると同時に、デコードしたものをアナログ経路で出力する場合のような例。
2. 別々の出力が、組み合わせとして別々の経路を流れる場合。例えば、同期した映像と音声を、全く別の結線を通して流したり、音声の中にあるタイミングでテキストや静止画のデータを非同期に流すような例。
3. 別の機能単位の動作と関連していることを示す。例えば、パルスサブユニットを介して他の機能単位やそのコンテンツを選択する場合に、どの機能単位が選択されたかを示すことができる。

【0038】

また、機器の外部入出力プラグを通して伝送されるコンテンツのフォーマットを示すデータとして、サーポテッドフォーマット (supported format) のデータがあり、それぞれに対応した外部入力プラグ又は外部出力プラグの番号を示すユニットプラグ (unit plug) のデータと、内部機能 (サブユニット) 単位のプラグ (subunit plug) のデータとがある。

【0039】

また、それぞれの結線のデータには、現在の使用状態を示すステータス (status) のデータが付与してある。アクティブ (active) と示されるのが、使用中の状態を示し、インアクティブ (inactive) と示されるのが、使用中でない状態を

示す。

【0040】

なお、各ユニットプラグの機能と値との対応は、例えば図6に示すように機能毎に付与されるようにする。例えば、IEEE1394方式のアイソクロナス伝送用のシリアルバスの入力プラグ及び出力プラグに付与される値と、その他のフォーマットのバスに接続される入力プラグ及び出力プラグに付与される値と、バス以外の信号線が使用される入力プラグ及び出力プラグに付与される値と、IEEE1394方式のアシンクロナス伝送用の入力プラグ及び出力プラグに付与される値と、その他の方式のアシンクロナス伝送用の入力プラグ及び出力プラグに付与される値と、複数のプラグへの同時出力が可能な出力プラグに付与される値などがある。

【0041】

図7は、このように構成されるテーブルを、AV/Cコマンドで規定されたディスクリプタとして示す図である。このディスクリプタは階層構造のデータとしてあり、図7の左端に示すよう、ユニットディスクリプタ (Unit Identifier Descriptor) で全体のデータが示され、その内の送信 (Source) のリストのディスクリプタ (Source List Descriptor) と、受信 (Destination) のリストのディスクリプタ (Destination List Descriptor) と、信号変換 (Transformation) のリストのディスクリプタ (Transformation List Descriptor) とが、それぞれの詳細なデータで構成される。

【0042】

それぞれのリストのディスクリプタでは、フォーマットエントリー (Format Entry) のデータで、各プラグが扱うフォーマットの詳細と、そのプラグに接続されるサブユニットプラグの詳細などが示される。この場合、プラグ番号の付与されたデータで、シリアルバスに接続されるプラグであるか、その他のフォーマットのプラグであるか等が判るようにしてある。

【0043】

また、フォーマットエントリーのデータの詳細を示すコネクションエントリー (Connection Entry) のデータで、どのフォーマット (例えばMPEGフォー

マットなど) のデータを入力又は出力できるプラグであるのか示される。

【0044】

次に、このように構成されるディスクリプタを、他の機器（コントロール機器）から読出す場合の処理について説明する。AV/Cコマンドで規定されたディスクリプタを他の機器から読出す場合には、アシンクロナス伝送で該当する機器に対して、読出しを指示するリクエストコマンドを伝送することで行われる。この場合、最初にディスクリプタをオープンさせるコマンドを送った後、そのオープンさせたディスクリプタを読出すリードコマンドを送って、該当するディスクリプタの内容を伝送させる。

【0045】

図8は、この場合のリクエストコマンドを伝送するパケットの構成例を示す図である。太線で囲って示す範囲が、本例のコマンドに関連するデータ構成部分であるデータブロックであり、その他の区間は、AV/Cコマンドのパケットで構成されるヘッダ部分や誤り訂正符号部分などを示すものである。

【0046】

データブロックとしては、コマンドセットのIDを示す[CTS]と、コマンドの機能分類を示す[ctype]と、サブユニットのアドレス(ID)を示す[subunit type]と、同一のサブユニットタイプを区別する[id]と、コマンドを示す[opcode]と、コマンドのパラメータを示す[operand]とが配置される。なお、リクエストコマンドに対する応答パケットの場合には、コマンドの機能分類を示す[ctype]の部分が、コマンドの処理結果を示す[response]となる。

【0047】

AV/Cコマンドで定義されるコマンドとレスポンスは、図9に示すように構成される。コマンドは、動作を実行させる[CONTROL]と、機器が対応するかどうかわか問い合わせる[STATUS]と、コントロールに対応するか問い合わせる[INQUIRY]と、何か変更があった際に問い合わせる[NOTIFY]などを備える。レスポンスは、対応していないことを示す[NOT IMPLEMENTED]と、コマンドを受け取ったことを示す[ACCEPTED]と、コマンドに対する動作を拒否する[REJECTED]と、ステータスの問い合わせに対して状態遷移中であることを示す[IN TRANSITIO

N] と、対応することを示す [IMPLEMENTED] 及び [STABLE] と、ノティファイのコマンドがあって変更時に送る [CHANGED] と、コントロール又はノティファイのコマンドを受信したときに送る [INTERIM] とがある。

【 0 0 4 8 】

サブユニットタイプとしては、図 1 0 に示すように、モニタ、ビデオデッキ、チューナ、カメラなどの A V 機器として存在するサブユニットタイプが示され、各サブユニット毎に [opcode] のテーブルを持つことになり、各 [opcode] 毎にパラメータを示す [operand] が定義される。

【 0 0 4 9 】

ここで本例においては結線に関する状態として、コマンドで図 1 1 に示すデータのレスポンスが行われるようにしてある。具体的には、接続状態 [Connected] であるとき、結線が固定されて常に接続されていることを示す [Permanent] と、録画中などの何らかの要求によって結線が接続されて、しかもその一時的にその接続を切断できない状態を示す [locked] と、ロックされていない通常の接続を示す [Unlocked] のいずれかのレスポンスがある。また、非接続状態 [Disconnected] であるとき、結線が接続されておらず、要求によって他の接続を阻害せずに接続できることを示す [Selectable] と、結線が接続されておらず、要求によって接続できるが、その接続をしたとき、他の接続を阻害する（具体的には他の接続が非接続になる可能性があること等）ことを示す [Alternative] と、結線が接続できない状態であることを示す [Disable] とがある。

【 0 0 5 0 】

また、信号入出力の状態として、図 1 2 に示すようにレスポンスが定義される。即ち、信号を出力できる状態のとき、結線の出力側（信号の流れの下流）のプラグに指示すれば、信号のフォーマットが変換できることを示す [Conversionable] と、通常の信号を流すことが可能な状態を示す [Stable] とのいずれかが示される。ここで、結線の状態が接続状態 [Connected] の種類であるとき、実際に信号を流すことができる。また、信号を流すことが出来ないときには、そのことを示す [No data] が示される。

【 0 0 5 1 】

また、このコマンドでは、他の機器が問い合わせる際に、必要な上述したを絞り込んで問い合わせることができるようにしてある。具体的には、特定フォーマットに関係する状態だけをステータスコマンドで問い合わせ、レスポンスを要求することができる。また、特定プラグに関係する状態だけをステータスコマンドで問い合わせ、レスポンスを要求することができる。さらに、特定の内部機能単位（サブユニット）に関係する状態だけをステータスコマンドで問い合わせ、レスポンスを要求することができる。

【0052】

例えば、図3～図5に示す構成の機器に対して、MPEGフォーマットを出力するものに関する状態を知りたいければ、出力である [Source] とフォーマット [MPEG] を問い合わせ、エントリーIDが1と5の状態を含んだレスポンスが得られる。また、機能単位（サブユニット）Bに対する状態が全て知りたいければ、全てを示す [All] と [Subunit B] と問い合わせ、エントリーIDが3, 4, 5, 9, 10, 11の状態を含んだレスポンスが得られる。

【0053】

図13は、接続を問い合わせるステータスコマンドの構成例を示す図であり、図14は、そのコマンドに対するステータスレスポンスの構成例を示す図である。なお、ステータスレスポンスについては、図14に示す構成のものが、該当するものが全て回答されるまで複数回繰り返し伝送パケットに配置される。

【0054】

なお、図13に示すように、本例の場合には、コマンドを送る際には、[operand] 0の区間では、特定のデータ“0xFF”を送り、レスポンスでは、図14に示すように、[generation number] が返される。これは、以前に問い合わせたときから変化があったかどうか示してあるものである。基本的には、全てのエントリーIDの中の1つでもステータスに変化があったとき、[generation number] が1つ更新される。この [generation number] は、例えば1バイトの値に固定にする場合には、0から始まって、0xFF (= 255) までカウントしたら再び0に戻るようにする。これは、[Source], [Destination], [Transformation] の3つの状態毎にカウント値を設定するようにしても良い。この

ように状態変化があることをカウント値で示すことで、問い合わせた側で判断し易くなる。

【0055】

このように機器内の接続状態に関するテーブルを各機器が持つて、そのテーブルをAV/Cコマンドのディスクリプタの形式として、そのディスクリプタをAV/Cコマンドに従って読出すことができるようにしたことで、各機器の状態を少ない処理で短時間に読出すことができるようになる。

【0056】

なお、図14に示すレスポンスで示されるステータスのデータ（図14の最も下の段のデータ）では、プラグの接続状態と、その接続で伝送される信号の状態の2つを示すようにしてある。即ち、例えばこのステータスのデータの前半の区間には、既に図11に示した、結線に関する状態のデータを配置し、ステータスのデータの後半の区間では、既に図12に示した、信号入出力の状態のデータを配置する。このようにすることで、結線と信号の出力状態の2つが判断できるようになる。

【0057】

次に、本発明の第2の実施の形態を、図15～図23を参照して説明する。

【0058】

本実施の形態においても、ネットワークシステムの構成については、例えば上述した第1の実施の形態で説明した図1のシステムと同様のシステムが適用されるものであり、デジタル通信制御バスであるIEEE1394方式のバスを介して、複数台の機器が接続してあるものに適用される。そして本実施の形態においては、第1の実施の形態で例えば図3～図5に示すように、機器（ユニット）100の構成と、それに対応したそれぞれの機能をリストアップしたデータを、バスで接続された他の機器に伝送する場合の処理を、第1の実施の形態の場合とは異なる処理で行うようにしたものである。即ち、既に説明した第1の実施の形態では、リストアップしてテーブルとしたデータを、AV/Cコマンドに基づいたディスクリプタで一括して相手の機器に送るようにしたが、本実施の形態では、相手の機器からの要求により、必要なデータだけを、相手の機器に送るようにし

たものである。

【 0 0 5 9 】

図 1 5 は、本例の場合に、バスで接続された相手の機器から、信号伝送状態を調べるために伝送するコマンド（シグナルフローステートコマンド）の例である。この例では、[opcode] の区間で、接続状態と信号伝送状態を調べるコマンドである [SIGNAL FLOW STATE] のコマンドのデータを送り、[operand] 0 の区間では、最大値のデータ（即ち 1 データが連続するデータ）である “F F” を送り、[operand] 1 と [operand] 2 の区間で、送信（Source）を特定するデータを送り、[operand] 3 と [operand] 4 の区間で、受信（Destination）を特定するデータを送る。他のオペランドについては、例えば最大値のデータを配置する。

【 0 0 6 0 】

但し、この例では、該当する機器の送信状態を問い合わせるだけであるので、受信（Destination）を特定するデータについては、例えば最大値のデータを配置する。[operand] 1 と [operand] 2 の区間を使用したソースを特定するデータとしては、例えばバスで接続された相手の機器の接続だけを問い合わせるコマンドとして、A V / C コマンドで既に規定されたコマンド（コネクトコマンド）でのソースデータの配置と同じものを使用する。即ち、既に規定されたコネクトコマンドでは、図 1 7 に示すように、[operand] 1 の区間の前半の 5 ビットを使用して、ソースサブユニットタイプを特定するデータを配置し、この区間の後半の 3 ビットを使用して、ソースサブユニット ID を特定するデータを配置する。また、[operand] 2 の区間の 8 ビットを使用して、ソースプラグを特定するデータを配置する。

【 0 0 6 1 】

なお、既に規定された図 1 7 に示すコネクトコマンドでは、[operand] 3 の区間の前半の 5 ビットを使用して、ディスティネーションサブユニットタイプを特定するデータを配置し、この区間の後半の 3 ビットを使用して、ディスティネーションサブユニット ID を特定するデータを配置する。また、[operand] 4 の区間の 8 ビットを使用して、ディスティネーションプラグを特定するデータを

配置し、受信側についても特定できるようにしてある。また、[operand] 0 の区間には、接続状態の詳細についてのデータ（ロックされた接続であるかなどのデータ）を配置するようにしてある。

【0062】

図15に示す本例のシグナルフローステートコマンドの構成の説明に戻ると、このシグナルフローステートコマンドの[operand] 1と[operand] 2のソースを特定する区間のデータ構成を、図17に示すコネクトコマンドの[operand] 1と[operand] 2の区間と同じデータ構成とし、特定の機器に対して、その機器の内部のサブユニットと、ソースプラグ（出力プラグ）を特定するデータを送り、そのサブユニットと出力プラグとの接続状態を問い合わせる。

【0063】

このシグナルフローステートコマンドを受信した側の機器では、このコマンドに対する応答であるシグナルフローステートレスポンスをバスに送出する。図16は、このシグナルフローステートコマンドを受信した側の機器で、そのコマンドで問い合わせられたデータの応答を行うシグナルフローステートレスポンスの構成例を示す図である。このレスポンスの[opcode]の区間で、接続状態と信号伝送状態のコマンドに関する応答であることを示す[SIGNAL FLOW STATE]のデータを送る。そして、[operand] 0の区間で、接続状態（connection state）を示すデータを配置し、[operand] 1と[operand] 2の区間で、送信（Source）を特定するデータを送り、[operand] 3と[operand] 4の区間で、受信（Destination）を特定するデータを送り、[operand] 5の区間で、複数の信号源が存在する場合のデータであるマルチプルソース（multiple source）のデータを送り、[operand] 6の区間で、出力状態（output state）を示すデータを配置する。この場合、[operand] 1から[operand] 4の区間のデータについては、コマンドに付加されたデータがそのまま返送され、[operand] 0の区間の接続状態と、[operand] 6の区間の出力状態のデータが、接続状態と信号伝送状態を示すデータである。

【0064】

シグナルフローステートコマンドを送信した側の機器では、この図16に示す

シグナルフローステートレスポンスを受信すると、この〔operand〕0の区間の接続状態と、〔operand〕6の区間に配置された出力状態のデータから、該当する箇所の接続状態と信号伝送状態を判断することができる。

【0065】

図16に示すシグナルフローステートレスポンスの〔operand〕0の区間の接続状態を示すデータとしては、例えば図18に示すデータ構成とする。この8ビットで構成されるデータの内の、上位2ビットは未定義のデータとしてあり、ここでは“00”を配置する。この2ビットの区間は、受信側ではどのデータが配置されても無視するデータ (ignored data) としてあり、将来何らかのデータがこの区間に定義されても支障がないようにしてある。

【0066】

次の2ビットの区間についても未定義のデータとしてあり、ここでは“00”を配置する。この2ビットの区間は、受信側では“00”のデータであったときだけ有効とする未使用データ (reserved data) としてある。

【0067】

次の2ビットの区間は、図11に示した接続状態〔Connected〕又は非接続状態〔Disconnected〕に関する状態のいずれかのデータを配置する。図18の例では、ロックされてない通常の接続を示す〔Unlocked〕のデータが配置してある。さらに、次の1ビットの区間に、そのときの接続のロック状態を示すデータ〔lock〕を配置し、最後の1ビットの区間に、そのときの接続が永久的な接続であるかを示すデータ〔perm〕を配置する。

【0068】

図16に示すシグナルフローステートレスポンスの〔operand〕6の区間の出力状態を示すデータとしては、例えば図19に示すデータ構成とする。この8ビットで構成されるデータの内の、上位2ビットは未定義データ (ignored data) で受信側では無視されるデータとしてあり、ここでは“00”を配置する。

【0069】

次の1ビットの区間については、0データであるときだけ有効な未使用データ (reserved data) として、“0”を配置する。

【0070】

次の1ビットの区間は、表示に関連したフラグ (i flag) としてある。このフラグは、例えば機器の動作状態などを文字、数字などの表示で表示させる表示パネル用のサブユニットに、オンスクリーンディスプレイ (OSD) 表示用の出力を指示して、アイソクロナスモードで出力される映像に、何らかの表示を重畳させたり、アナログ出力端子から出力される映像に何らかの表示を重畳させたとき、該当する出力プラグ (出力端子) からの出力映像で、その表示が行われていることを示すフラグである。

【0071】

残りの4ビットの区間は、出力状態 (output state) を示すデータが配置される。この出力状態のデータとしては、例えば図20に示すように、その状態と値とが設定してある。具体的には、通常出力状態 (normal) と、データフォーマットを変換して出力する状態 (convertible) と、無音状態となった信号の出力状態 (muting) と、映像などが存在しない状態での出力 (no data) と、アイソクロナス転送プラグが用意された状態 (virtual output) と、その他の状態 (reserved) とが用意されている。

【0072】

このように構成して、出力状態の詳細を相手側の機器に知らせることで、このデータを受信した側の機器では、受信したデータの状態が判断できる。特に、オンスクリーンディスプレイ表示用のフラグを備えたことで、オンスクリーンディスプレイ表示が行われている出力プラグが判ることで、例えば機器が備えるどの出力プラグからの映像データを受信して表示させることで、該当する機器の動作状態などのオンスクリーンディスプレイ表示が行えるか判断できるようになる。機器によっては、アイソクロナスモードで出力されるデジタル映像データには、オンスクリーンディスプレイ表示をさせることが困難な機器があり、アナログ出力端子などの特定の出力部 (出力プラグ) の出力信号からだけ、オンスクリーンディスプレイ表示が可能な場合があり、このような場合に、受信側の機器で適切な表示を行うための判断が可能になる。

【0073】

また、図 16 に示すシグナルフローステートレスポンスの〔operand〕5の区間の、複数の信号源が存在する場合のデータであるマルチプルソースについては、例えば図 21 に示すデータ構成とする。即ち、この 8 ビットで構成されるデータの内の、上位 4 ビットは複数の信号源（ソース）の内の 1 つのソース番号のデータ（signal source number）とし、下位 4 ビットはトータルの信号源の数のデータ（total signal source）としてある。

【0074】

この複数の信号源に関するデータは、該当する機器が例えば図 22 に示す構成であるときに使用される。即ち、機器（ユニット）200 が備えるサブユニット 201 内で、2 つの入力プラグ 211, 212 からの入力データを合成する処理を行って、1 つの出力プラグ 213 から出力させる状態となっているときに使用される。この場合、サブユニット 201 での合成処理としては、例えば 2 つの映像データを、1 つの映像データに合成するビデオ編集処理などによる合成処理や、一方の入力からの映像データに、他方の入力からの音声データを付加する合成処理などが考えられる。

【0075】

この図 22 に示す合成処理が行われた状態であるとき、シグナルフローステートレスポンスの〔operand〕5の区間を使用して、例えば図 23 に示すデータ伝送が行われる。即ち、最初に状態を知りたい機器からコマンドを伝送する際には、図 23 の A に示すように、この区間に最大値のデータ“FF”を配置し、そのコマンドに対する 1 回目のレスポンスでは、図 23 の B に示すように、前半のソース番号のデータとして、複数存在する内の一方の入力プラグである入力プラグ 211（iPCR1）のコード番号を配置し、後半のトータルの信号源数のデータとして、入力数 2 を配置する。

【0076】

そして、図 23 の C に示すように、2 回目のコマンドの伝送があるときには、受信側の機器でもう 1 つの入力プラグを知りたいので、該当する区間（〔operand〕5の区間）のデータとして、ソース番号のデータに 2 を配置し、トータルの信号源数のデータとして入力数 2 を配置する。このコマンドに対するレスポンス

としては、図 2 3 の D に示すように、ソース番号のデータとして、他方の入力プラグである入力プラグ 2 1 2 (i P C R 2) のコード番号を配置し、トータルの信号源数のデータとして、入力数 2 を配置する。

【0 0 7 7】

このようにマルチプルソースに関するデータ伝送を行うことで、データを出力している機器内で、他の機器からのデータを合成して出力しているとき、その合成に関する詳細が、受信側の機器で判るようになる。

【0 0 7 8】

次に、本発明の第 3 の実施の形態を、図 2 4 ～図 2 7 を参照して説明する。

【0 0 7 9】

本実施の形態においても、ネットワークシステムの構成については、例えば上述した第 1 の実施の形態で説明した図 1 のシステムと同様のシステムが適用されるものであり、デジタル通信制御バスである I E E E 1 3 9 4 方式のバスを介して、複数台の機器が接続してあるものに適用される。そして本実施の形態においては、第 1 の実施の形態で例えば図 3 ～図 5 に示すように、機器*(ユニット) 1 0 0 の構成と、それに対応したそれぞれの機能をリストアップしたデータを、バスで接続された他の機器に伝送する場合の処理を、第 1 の実施の形態の場合や、第 2 の実施の形態の場合とは異なる処理で行うようにしたものである。即ち、既に説明した第 2 の実施の形態では、映像の出力状態の詳細を相手側の機器に知らせるためのフラグを用意したが、本実施の形態では、出力される映像の加工状態を示す特定のフィールドを、映像に関するデータ中に用意し、そのフィールドのデータで映像の加工状態の詳細を相手に知らせるようにしたものである。

【0 0 8 0】

図 2 4 は、本例の場合に、バスで接続された相手の機器（ここでは映像を受信するディスティネーション機器）から、信号出力状態を調べるために伝送するコマンド（シグナルソースステータスコマンド）の例である。この例では、[opcode] の区間で、ソース機器に対して信号状態を問い合わせるコマンドである [SIGNAL SOURCE] のステータスコマンドのデータを送り、[operand] 0, [operand] 1, [operand] 2 の区間では、最大値のデータ（即ち 1 データが連続す

るデータ)である“FF”を送り、[operand] 3の区間で、受信(Destination)を特定するデータとして、そのディスティネーション機器のサブユニットタイプ(signal destination subunit type)のデータと、ディスティネーション機器のサブユニットID(signal destination subunit ID)のデータを送り、[operand] 4の区間で、ディスティネーション機器の入力プラグを特定するデータ(signal destination plug)を送る。

【0081】

なお、ディスティネーション機器以外の機器が信号出力状態を調べる場合には、ディスティネーション機器に関するデータとして、例えば最大値のデータを配置するようにしても良い。

【0082】

図25は、このステータスコマンドに対するレスポンス(シグナルソースステータスレスポンス)の例である。この例では、[opcode]の区間で、ソース機器に対して信号状態を問い合わせた場合のレスポンスである[SIGNAL SOURCE]のステータスコマンド(レスポンス)のデータを送り、[operand] 0の区間では、信号の出力状態に関するデータ(output status)のフィールド(先頭の4ビット区間)と、信号の変換処理の有無に関するデータ(conv)のフィールド(1ビット区間)と、信号の加工状態に関するデータ(signal status)のフィールド(後半の3ビット区間)とが用意しており、それぞれのフィールドで現在のソース機器での状態に関するデータを送る。[operand] 1と[operand] 2の区間では、出力される信号(ここでは映像データ)の信号源に関するデータ(signal source)を送る。[operand] 3と[operand] 4の区間には、図24に示すコマンドに配置されたディスティネーション機器に関するデータをそのまま返送する。

【0083】

図26は、シグナルソースステータスレスポンスの[operand] 0の区間のアウトプットステータスの4ビットのデータと、その出力状態を示すデータの意味の対応の例を示したものである。ここでの例を説明すると、データ“0000”の場合には、有効なパケットデータが出力されていることを示す。データ“00

“0 1”の場合には、有効なパケットデータが出力されていないことを示す。データ“0 0 1 0”の場合には、別のディスティネーション機器に対してコネクションを張っている状態などで、指示されたディスティネーション機器に対して出力できない状態を示す。データ“0 0 1 1”の場合には、パケットデータを送出できる用意ができている状態を示す。データ“0 1 0 0”の場合には、他のソース機器からのデータを、このソース機器を経由して出力させている状態（ここではこのような状態をバーチャルアウトプット状態と称する）を示す。データ“0 1 0 1”～“1 1 1 1”は、ここでは未定義である。

【0 0 8 4】

図 2 7 は、シグナルソースステータスレスポンスの [operand] 0 の区間のシグナルステータスの 3 ビットのデータと、そのデータの意味の対応の例を示したものである。ここでの例を説明すると、データ“0 0 0”の場合には、ソース源からのデータが加工されずにそのままのデータとして出力させていることを示す。データ“0 0 1”の場合には、複数のデータ（ここでは複数の映像）を複合化したデータ（例えば複数の映像を並べて配置させた映像となるデータなど）に加工して出力させていることを示す。データ“0 1 0”の場合には、オンスクリーンディスプレイ（OSD）と称される文字や図形などの何らかの情報を映像に重畳するように加工して出力させていることを示す。データ“0 1 1”の場合には、複数のデータを混合したデータに加工した状態（例えば特殊な処理で 1 つの映像中に別の物体を挿入させて合成された映像とする等）であることを示す。データ“1 0 0”の場合には、データ源からのデータに対して何らかの変換処理（例えばデータフォーマットの変換処理など）を行ったことを示す。データ“1 0 1”の場合には、ここまで示した加工処理以外の特殊な加工を行ったことを示す。データ“1 1 0”の場合には、出力データが無効なデータであることを示す。データ“1 1 1”は、ここでは未定義である。

【0 0 8 5】

このようにして、シグナルソースステータスレスポンスの中の特定のフィールドを使用して、出力データの出力状態と、その出力データの加工状態の詳細を示すようにしたことで、ディスティネーション機器などのレスポンスを受信する側

では、ソース機器から出力されるデータ（ここでは映像データ）の詳細を知ることができ、ディスティネーション機器で受信したデータを処理する際の判断が簡単にできるようになる。また、信号の変換処理の有無に関するデータ（conv）のフィールドを、信号の処理状態のフィールドとは別に設けてあり、ソース機器から出力される映像データなどのフォーマット変換などが行われたか否かをディスティネーション機器側で判断することも可能になる。なお、図 2 6，図 2 7 に示したデータ例は、一例を示したものであり、他のデータ構成を適用しても良い。

【0086】

なお、この実施の形態では、映像をソース機器からディスティネーション機器に伝送する場合に、ソース機器での映像データの出力状態と、その出力映像データの加工状態についての情報を、ディスティネーション機器などに伝送するようにしたが、映像データ以外のストリームデータを、ソース機器からディスティネーション機器に伝送する場合に、そのストリームデータの出力状態と、加工状態についての情報を、同様の処理で伝送するようにしても良い。例えば、オーディオデータをソース機器から出力させる場合に、その出力状態と、加工状態についての情報を同様のフィールドで伝送するようにしても良い。

【0087】

また上述した各実施の形態では、IEEE 1394 方式のバスで構成されるネットワーク内で、AV/C コマンドの形式でデータ伝送を行う場合の例としたが、その他の構成のネットワークやフォーマットで処理する場合にも適用できるものである。

【0088】

また、上述した各実施の形態では、機器内部のサブユニットと出力部（出力プラグ）との接続状態と出力状態を、他の機器から問い合わせ、それぞれの情報を得るようにしたが、機器の入力部（入力プラグ）とサブユニットとの接続状態及び入力状態を、同様のコマンドで問い合わせ、それぞれの情報を得るようにしても良い。

【0089】

【発明の効果】

請求項 1 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 1 4 に記載した伝送装置によると、テーブルに保持された接続情報を所定のプロトコルにより読出すことで、バスで接続された機器の情報が簡単に得られるようになる。

【0 0 9 0】

請求項 2 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 1 5 に記載した伝送装置によると、請求項 1 又は請求項 1 4 に記載した発明において、テーブルに保持された接続情報は、機器が備える入力部又は出力部と内部の機能処理部との接続に関する情報と、機器が入力又は出力するフォーマットに関する情報とを含むようにしたことで、これらの情報についても簡単に得られるようになる。

【0 0 9 1】

請求項 3 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 1 6 に記載した伝送装置によると、請求項 2 又は請求項 1 5 に記載した発明において、テーブルに保持された入力部又は出力部と機能処理部との接続に関する情報は、同一データを複数の接続で同時に伝送できることに関する情報を含むようにしたことで、同時に伝送できることに関する設定についても簡単に判断できるようになる。

【0 0 9 2】

請求項 4 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 1 7 に記載した伝送装置によると、請求項 2 又は請求項 1 5 に記載した発明において、テーブルに保持された接続情報は、入力又は出力するフォーマットを他のフォーマットに変換する機能に関する情報を更に含むようにしたことで、該当する装置が扱うフォーマットに関しても簡単に判断できるようになる。

【0 0 9 3】

請求項 5 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 1 8 に記載した伝送装置によると、請求項 2 又は請求項 1 5 に記載した発明において、テーブルに保持された情報で示される入力部又は出力部は、バスラインに接続される入力部又は出力部以外のものを含むことで、装置が備える全ての入力部や出力部の詳細が判断できるようになる。

【0 0 9 4】

請求項 6 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 1 9 に記載した伝送装置に

よると、請求項 2 又は請求項 1 5 に記載した発明において、所定のフォーマットのプロトコルの伝送により、機器内の現在の接続状態に関する情報を、他の機器に伝送するようにしたことで、その装置の現在の接続状態を容易に判断できるようになる。

【0 0 9 5】

請求項 7 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 2 0 に記載した伝送装置によれば、請求項 6 又は請求項 1 9 に記載した発明において、現在の接続状態を変更したとき、他の接続に影響があるとき、そのことに関する情報を更に伝送するようにしたことで、接続変更時に他の出力などが変化して出力が中断するような事故を防止できる。

【0 0 9 6】

請求項 8 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 2 1 に記載した伝送装置によれば、機器の入力部又は出力部と機能処理部とを直接的に指定することで、その機器の詳細な状態に関する情報が得られ、その得られた情報を記憶する側の機器（伝送装置）では、テーブルの全てのデータを受信して記憶する必要がなく、必要な接続状態のデータだけを効率良く得ることができる。

【0 0 9 7】

請求項 9 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 2 2 に記載した伝送装置によれば、請求項 8 又は請求項 2 1 に記載した発明において、該当する接続で伝送されるデータの信号源を特定するデータについても、バスラインで伝送するようにしたことで、相手側の機器では、伝送されるデータの信号源についても特定できるようになる。

【0 0 9 8】

請求項 1 0 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 2 3 に記載した伝送装置によれば、請求項 9 又は請求項 2 1 に記載した発明において、信号源が複数存在するとき、その複数の信号源についてのデータを伝送するようにしたことで、複数の信号源からのデータが混合されているような場合であっても、その詳細が判るようになる。

【0 0 9 9】

請求項 1 1 に記載した機器データ伝送方法によると、請求項 9 に記載した発明において、入力部又は出力部と機能処理部とを指定するデータは、その入力部又は出力部と機能処理部との接続に関する設定を行うときのデータと共通のデータ構造としたことで、バスラインに伝送させるデータの作成が簡単に行えるようになると共に、その伝送されたデータの判断が容易に行えるようになる。

【0 1 0 0】

請求項 1 2 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 2 4 に記載した伝送装置によると、機器から出力される映像の出力状態のデータで、その映像にオンスクリーンディスプレイなどの付加情報の映像が重畳されていることに関する情報が得られるようになり、例えばその出力映像を表示する側で、付加情報の表示が必要なとき、どの出力映像を表示させれば良いか等が判断できるようになる。

【0 1 0 1】

請求項 1 3 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 2 5 に記載した伝送装置によると、請求項 1 2 又は請求項 2 4 に記載した発明において、フラグで示される特定の映像は、オンスクリーンディスプレイの映像であることで、オンスクリーンディスプレイの表示が行われる出力を選択することが容易にできるようになる。

【0 1 0 2】

請求項 1 4 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 3 3 に記載した伝送装置によると、機器から出力されるデータの出力状態のデータの特定フィールドで、そのデータの加工状態に関する情報が得られるようになり、例えば出力データが映像であり、その出力映像を表示する側で、表示のための何からの処理が必要なとき、どのように処理すれば良いかが、特定フィールドのデータから簡単に判断できるようになる。

【0 1 0 3】

請求項 1 5 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 3 4 に記載した伝送装置によると、請求項 1 4 又は請求項 3 3 に記載した発明において、特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像データの圧縮を解いた状態を示すデータとしたことで、映像データの逆圧縮処理が必要か否か等が簡単に判断できるようになる。

なる。

【0 1 0 4】

請求項 1 6 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 3 5 に記載した伝送装置によると、請求項 1 4 又は請求項 3 3 に記載した発明において、特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像を重ねて表示させるオンスクリーンディスプレイの状態を示すデータとしたことで、オンスクリーンディスプレイの表示処理が簡単に行える。

【0 1 0 5】

請求項 1 7 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 3 6 に記載した伝送装置によると、請求項 1 4 又は請求項 3 3 に記載した発明において、特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像が混合された状態を示すデータとしたことで、例えば伝送された映像データを表示させる際に特殊な映像混合処理を施すことが簡単に行える。

【0 1 0 6】

請求項 1 8 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 3 7 に記載した伝送装置によると、請求項 1 4 又は請求項 3 3 に記載した発明において、特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像データの信号フォーマットが変換された状態を示すデータとしたことで、伝送された映像データの信号フォーマットの判断が的確に行える。

【0 1 0 7】

請求項 1 9 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 3 8 に記載した伝送装置によると、請求項 1 4 又は請求項 3 3 に記載した発明において、特定フィールドのデータで示される加工状態は、映像に対して特別な加工が施された状態であることを示すデータとしたことで、伝送された映像データに特別な加工が施されたことが簡単に判るようになる。

【0 1 0 8】

請求項 2 0 に記載した機器データ伝送方法及び請求項 3 9 に記載した伝送装置によると、請求項 1 4 又は請求項 3 3 に記載した発明において、特定フィールドのデータで示される加工状態は、信号源の映像と全く同一である状態であること

を示すデータとしたことで、何らかの加工が施されていない状態であること等が簡単に判るようになる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 の実施の形態によるシステム全体の構成例を示すブロック図である。

【図 2】

I E E E 1 3 9 4 方式のバスによる伝送状態の例を示す説明図である。

【図 3】

本発明の第 1 の実施の形態による機器の出力に関する接続情報の例を示す説明図である。

【図 4】

本発明の第 1 の実施の形態による機器の入力に関する接続情報の例を示す説明図である。

【図 5】

本発明の第 1 の実施の形態による機器の外部からの入力の出力に関する接続情報の例を示す説明図である。

【図 6】

本発明の第 1 の実施の形態によるユニットプラクのデータ例を示す説明図である。

【図 7】

本発明の第 1 の実施の形態による接続情報に関するディスクリプタの構成例を示す説明図である。

【図 8】

本発明の第 1 の実施の形態によるアシンクロナスパケットの構成例を示す説明図である。

【図 9】

本発明の第 1 の実施の形態によるコマンド及びレスポンスの構成例を示す説明図である。

【図 1 0】

本発明の第 1 の実施の形態によるサブユニットタイプ及びオペコードの構成例を示す説明図である。

【図 1 1】

本発明の第 1 の実施の形態による結線の種類及び状態のデータ例を示す説明図である。

【図 1 2】

本発明の第 1 の実施の形態による信号入出力の種類及び状態のデータ例を示す説明図である。

【図 1 3】

本発明の第 1 の実施の形態によるコネクトステータスコマンドの例を示す説明図である。

【図 1 4】

本発明の第 1 の実施の形態によるコネクトステータスレスポンスの例を示す説明図である。

【図 1 5】

本発明の第 2 の実施の形態によるシグナルフローステータスコマンドの例を示す説明図である。

【図 1 6】

本発明の第 2 の実施の形態によるシグナルフローステータスレスポンスの例を示す説明図である。

【図 1 7】

本発明の第 2 の実施の形態によるコネクトコマンドの例を示す説明図である。

【図 1 8】

本発明の第 2 の実施の形態によるコネクションステータスレスポンスのデータ例を示す説明図である。

【図 1 9】

本発明の第 2 の実施の形態によるアウトプットステータスレスポンスのデータ例を示す説明図である。

【図 2 0】

本発明の第 2 の実施の形態による出力状態のデータ例を示す説明図である。

【図 2 1】

本発明の第 2 の実施の形態によるマルチソースのデータ例を示す説明図である。

【図 2 2】

本発明の第 2 の実施の形態によるマルチソースが適用される例を示す構成図である。

【図 2 3】

本発明の第 2 の実施の形態によるマルチソースフィールドのデータ伝送例を示す説明図である。

【図 2 4】

本発明の第 3 の実施の形態によるシグナルソースステータスコマンドのデータ構成例を示す説明図である。

【図 2 5】

本発明の第 3 の実施の形態によるシグナルソースステータスレスポンスのデータ構成例を示す説明図である。

【図 2 6】

本発明の第 3 の実施の形態によるアウトプットステータスフィールドのデータの例を示す説明図である。

【図 2 7】

本発明の第 3 の実施の形態によるシグナルステータスフィールドのデータの例を示す説明図である。

【図 2 8】

従来の機器の構成を問い合わせる例を示す説明図である。

【図 2 9】

従来の機器の接続情報を問い合わせる例を示す説明図である。

【符号の説明】

1, 2 … IEEE 1394 方式のバスライン、10 … テレビジョン受像機、2

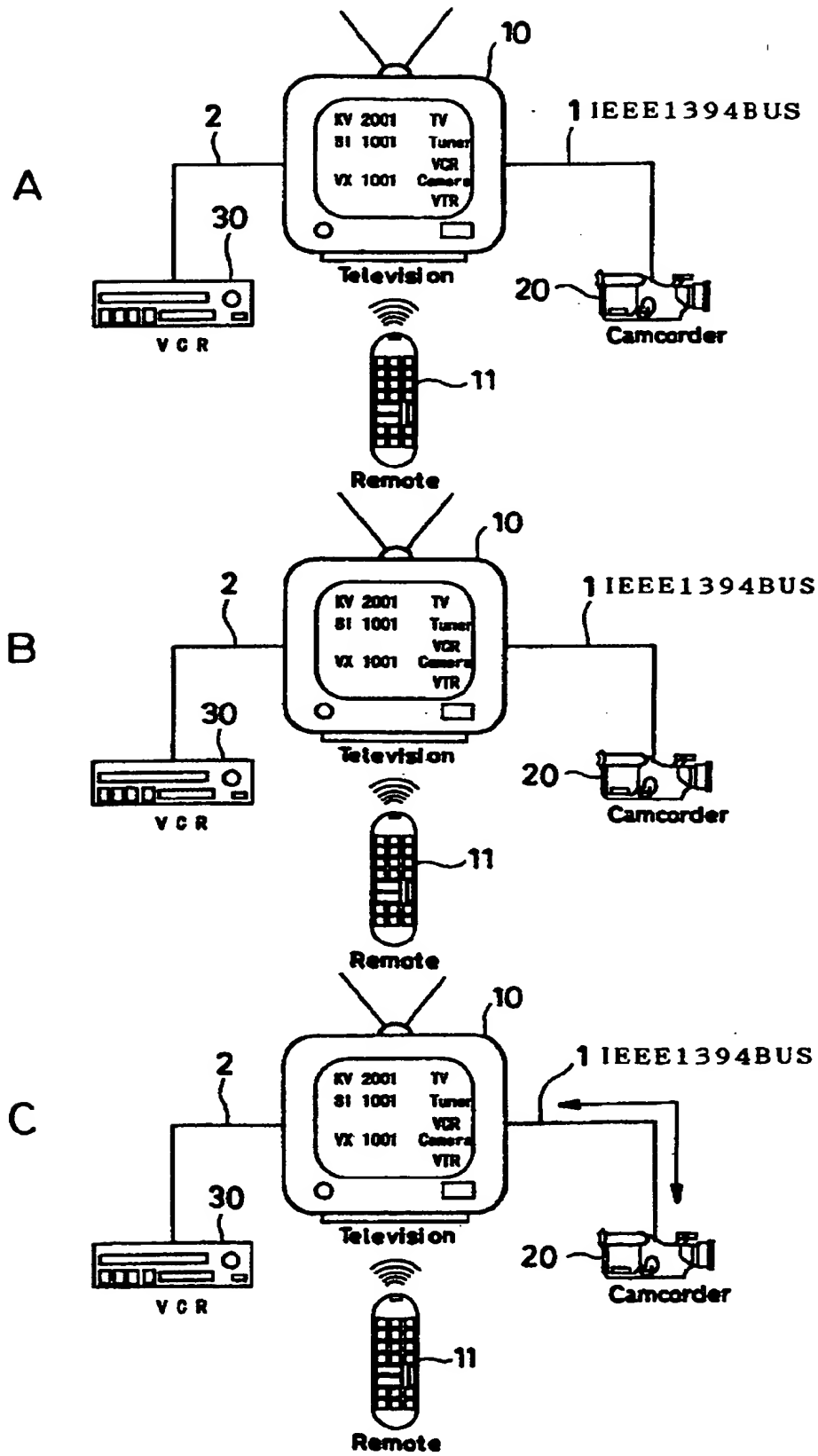
0…ビデオカメラ、30…ビデオテープデッキ（VCR）、100、200…ユニット、111、112、113、201…サブユニット、121、122、123、124、213…出力プラグ、131、132、133、134、211、212…入力プラグ

特平 1 1 - 3 4 5 3 5 4

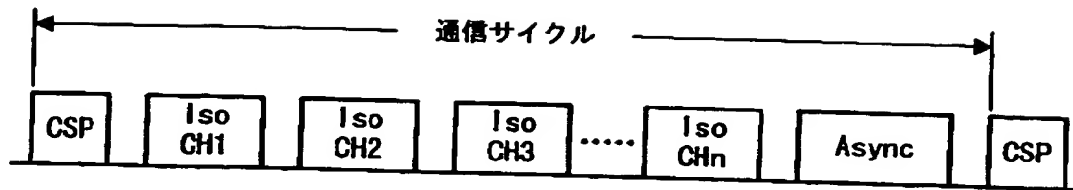
【書類名】

図面

【図 1】

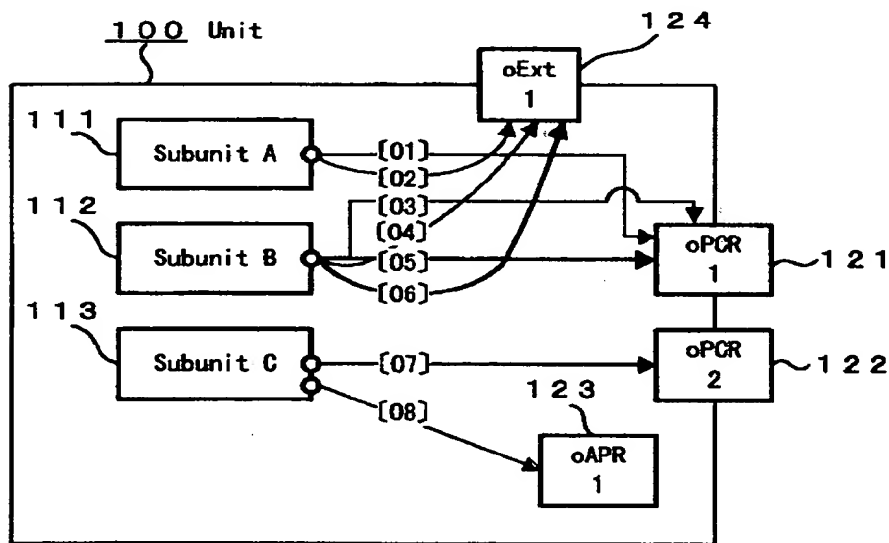


【図 2】



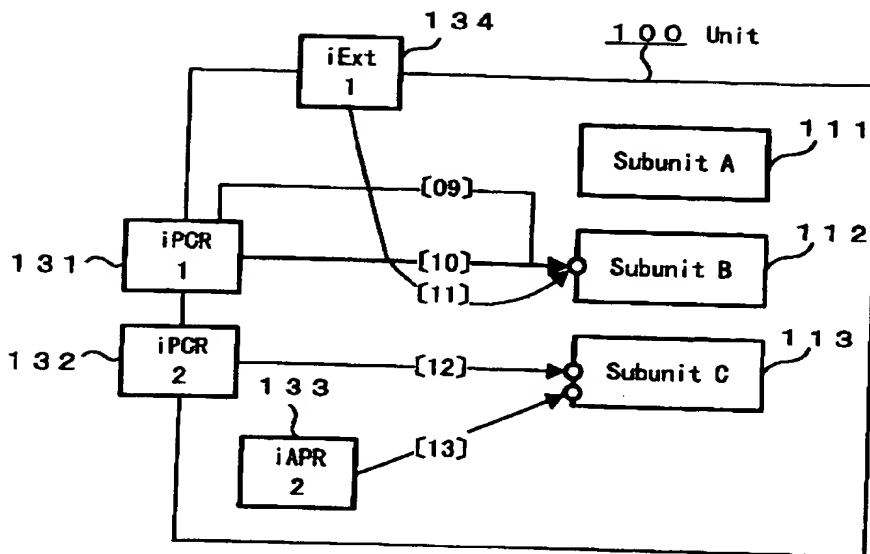
CSP: サイクルスタートパケット
 Iso: Isoパケット
 Async: Asyncパケット

【図 3】



entry_ID	group_ID	unit_plug	format	gource_plug	status
01	01	oPCR 1	MPEG	Subunit A 1	inactive
02	01	oExt 1	Analog AV	Subunit A 1	inactive
03	02	oPCR 1	DVCR	Subunit B 1	inactive
04	02	oExt 1	Analog AV	Subunit B 1	inactive
05	03	oPCR 1	MPEG	Subunit B 1	active
06	03	oExt 1	Analog AV	Subunit B 1	active
07	05	oPCR 2	A&M	Subunit C 1	inactive
08	05	oAPR 1	JPEG	Subunit C 2	inactive

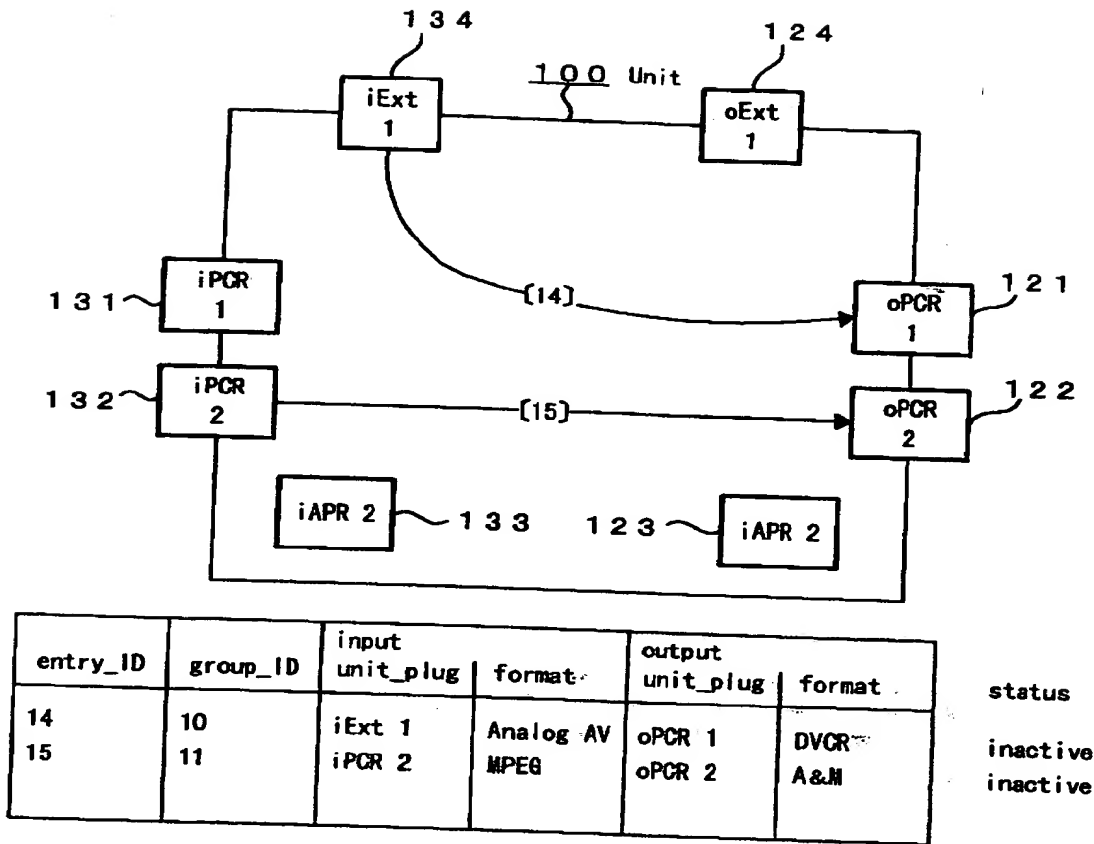
【図 4】



entry_ID	group_ID	unit_plug	format	destination_plug
09	06	iPCR 1	MPEG	Subunit B 1
10	07	iPCR 1	DVCR	Subunit B 1
11	08	iExt 1	Analog AV	Subunit B 1
12	09	iPCR 2	A&M	Subunit C 1
13	09	iAPR 2	JPEG	Subunit C 2

status
inactive
active
inactive
inactive
inactive
inactive

【図 5】

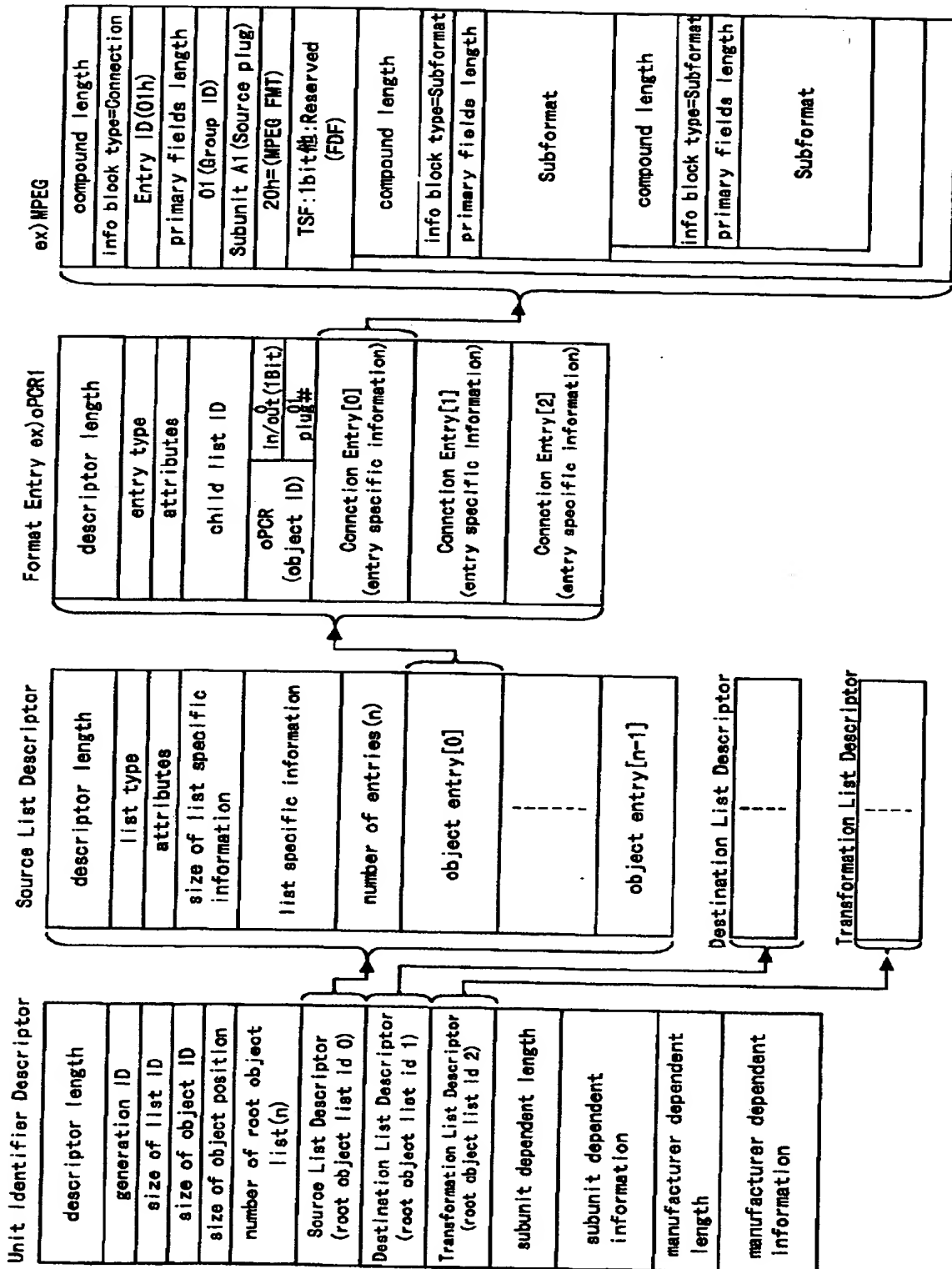


【図 6】

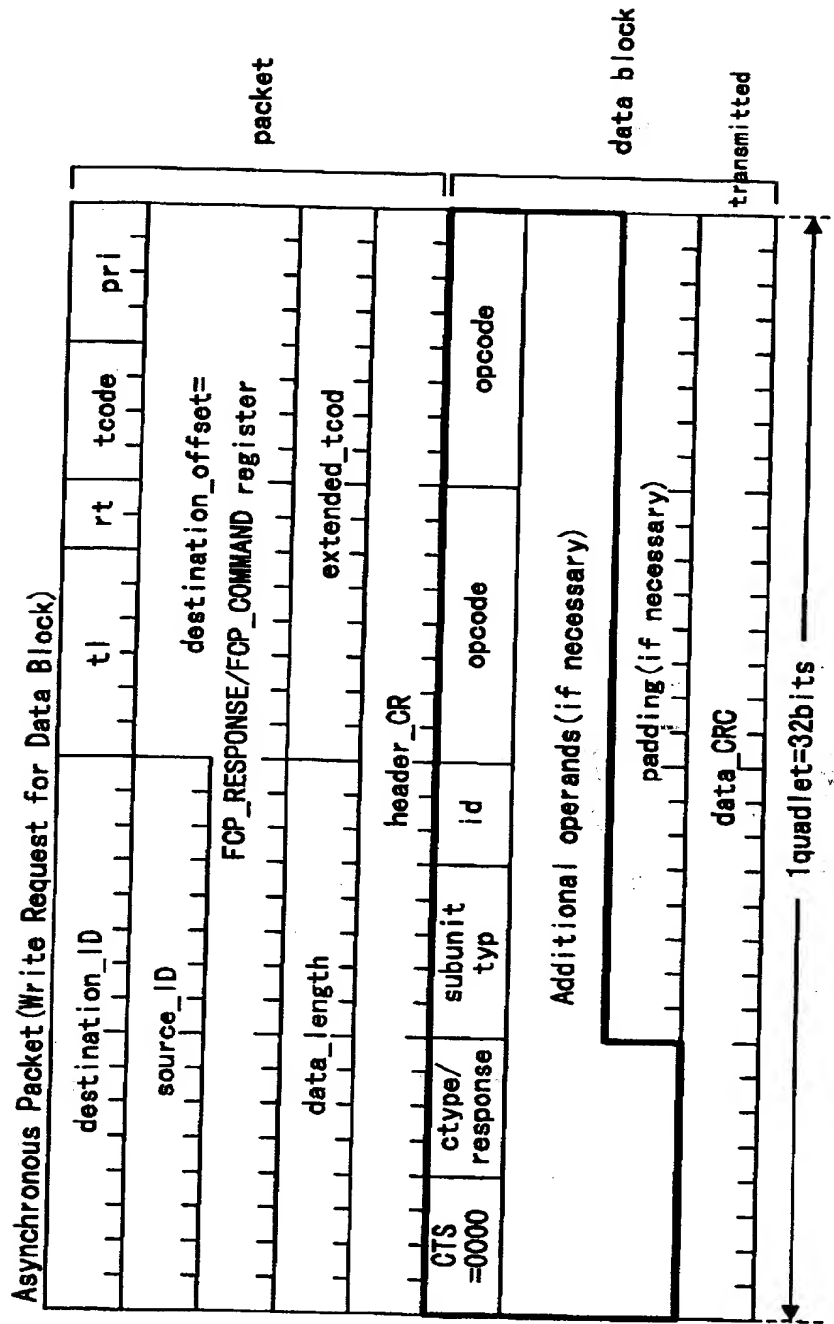
Encoding of unit_plug

value	source plug	destination plug
0-1E	Serial Bus iPCR[0]-iPCR[30]	Serial Bus oPCR[0]-oPCR[30]
1F-7E	Reserved for future specification	
7F	Any available Serial Bus plug	
80-9E	External input plug 0-30	External output plug 0-30
9F	Reserved for future specification	
A0-BE	Asynch. input plug[0]-[30]	Asynch. output plug[0]-[30]
BF	Any available Asynch. plug	
C0-FC	Reserved for future specification	
FD	Reserved	Multiple plugs
FE	Invalid	
FF	Any available external plug	

【図 7】



【図 8】



【図 9】

ctype/		
C o m m a n d	0000	CONTROL
	0001	STATUS
	0010	INQUIRY
	0011	NOTIFY
	0100	(reserved)
	0111	
R e s p o n s e	1000	NOT IMPLEMENTED
	1001	ACCEPTED
	1010	REJECTED
	1011	IN TRANSITION
	1100	IMPLEMENTED/STABLE
	1101	CHANGED
	1110	(reserved)
	1111	INTERIM

【図 1 0】

subunit_typ		opcode : Operation	
00000	Monitor (reserved)	08h	OPEN DESCRIPTOR
00100	VCR	09h	READ DESCRIPTOR
00101	Tuner	0Ah	WRITE DESCRIPTOR
00111	Camera (reserved)	C8h	DIRECT SELSELECT OBJECT
11111	Unit	C9h	OBJECT NUMBER SELECT
		CAh	DIRECT SELECT ELEMENTARY STREAM
		CBh	DIRECT SELECT DATA

【図 1 1】

種類	状態
Connected	Permanent
	Locked
	Unlocked
Disconnected	Selectable
	Alternative
	Disable

【図 1 2】

種類	状態
Active	Conversionable
	Stable
Inactive	No data

【図 1 3】

CONNECT STATUS status command

	AV/C command
	ctype=status
Opcode	CONNECT STATUS (0x1a)
Operand[0]	0xFF
Operand[1]	Source/Destination/ Transformation/All
Operand[2]	Format/Plug/Subunit/All
Operand[3]	Dependent field (可変長)
⋮	(Format:5 bytes)
⋮	(Plug:1 byte)
⋮	(Subunit:1 byte)
Operand[6]	(All:0 byte)

【図 1 4】

CONNECT SATUS response

	AV/C command
	status
Opcode	CONNECT STATUS (0x1a)
Operand[0]	Generation Number
Operand[1]	Source/Destination/ Transformation/All
Operand[2]	Format/Plug/Subunit/All
Operand[3]	Dependent field (可変長)
	number of entries
Current Source entry(1)	entry ID
	group ID
	unit plug
	status

【図 1 5】

	msb						lsb
Opcode	SIGNAL FLOW STATE						
Operand[0]	FF16						
Operand[1]	source						
Operand[2]							
Operand[3]	destination						
Operand[4]							
Operand[5]	FF16						
Operand[6]	FF16						

【図 1 6】

	msb						lsb
Opcode	SIGNAL FLOW STATE						
Operand[0]	connection state						
Operand[1]	source						
Operand[2]							
Operand[3]	destination						
Operand[4]							
Operand[5]	multiple source						
Operand[6]	output state						

【図 1 7】

	msb							lsb
Opcode	CONNECT							
Operand [0]	3F ₁₆						lock	perm
Operand [1]	source subunit type				source subunit ID			
Operand [2]	source plug							
Operand [3]	destination subunit type				destination subunit ID			
Operand [4]	destination plug							

【図 1 8】

msb						lsb
00 (ignored)	00 (reserved)	unconnected	lock	perm		

【図 1 9】

msb						lsb
00 (ignored)	0 (reserved)	i flag	output			

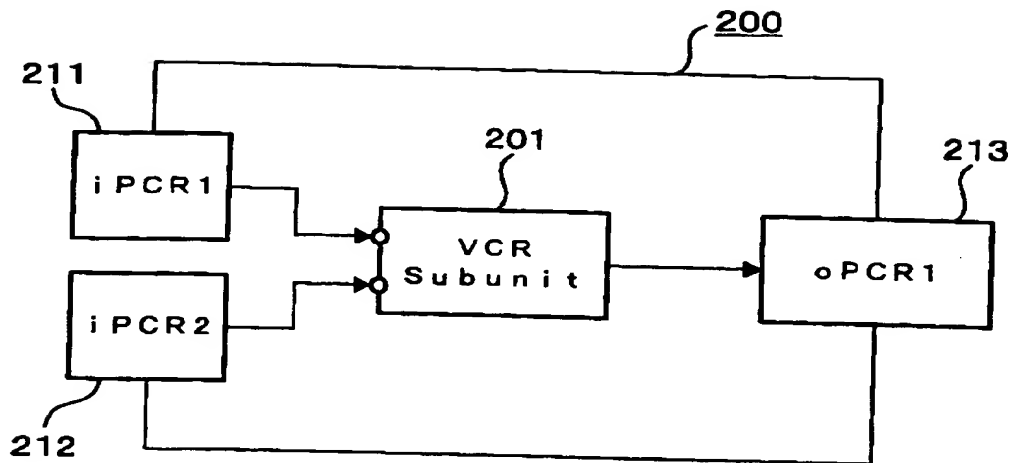
【図 2 0】

value	output state
00 ₁₆	normal
01 ₁₆	convertible
02 ₁₆	muting
03 ₁₆	no data
04 ₁₆	virtual output
other values	reserved

【図 2 1】

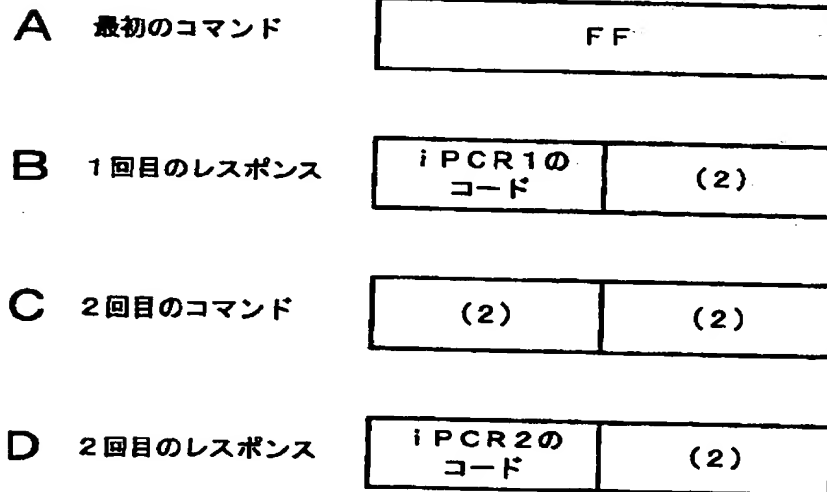
msb						lsb
signal source number						total signal source

【図 2 2】



複数の入力がある場合の例

【図 2 3】



マルチソースフィールドの伝送例

【図 2 4】

	msb										lsb
opcode	SIGNAL SOURCE (2816)										
operand [0]	FF16										
operand [1]	FF16										
operand [2]	FF16										
operand [3]	signal destination subunit type							signal destination subunit ID			
operand [4]	signal destination plug										

シグナルソースステータスコマンド

【図 2 5】

	msb									lsb
opcode	SIGNAL SOURCE (2816)									
operand [0]	output status				conv		signal status			
operand [1]	signal source									
operand [2]										
operand [3]	signal destination subunit type					signal destination subunit ID				
operand [4]	signal destination plug									

シグナルソースステータスレスポンス

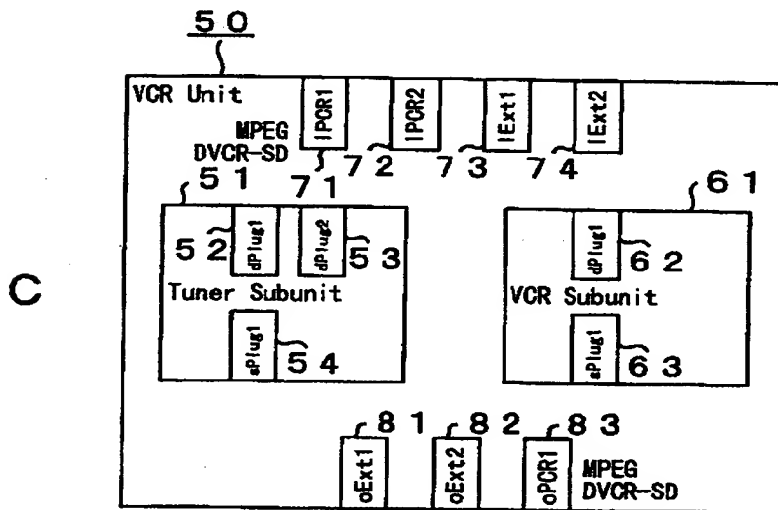
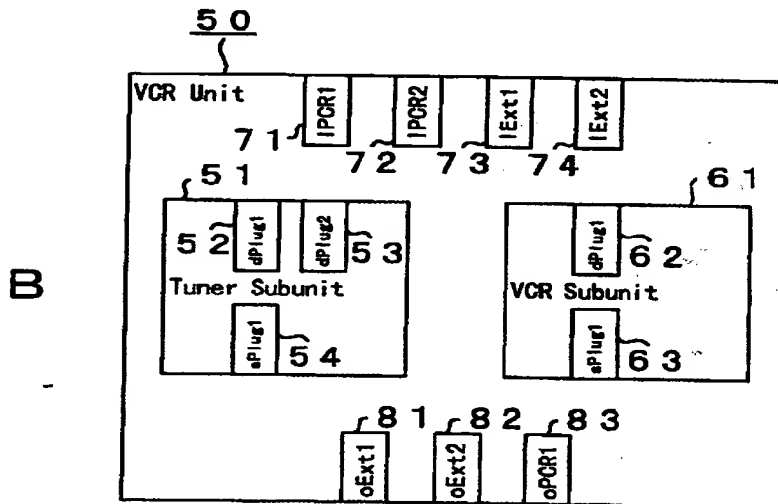
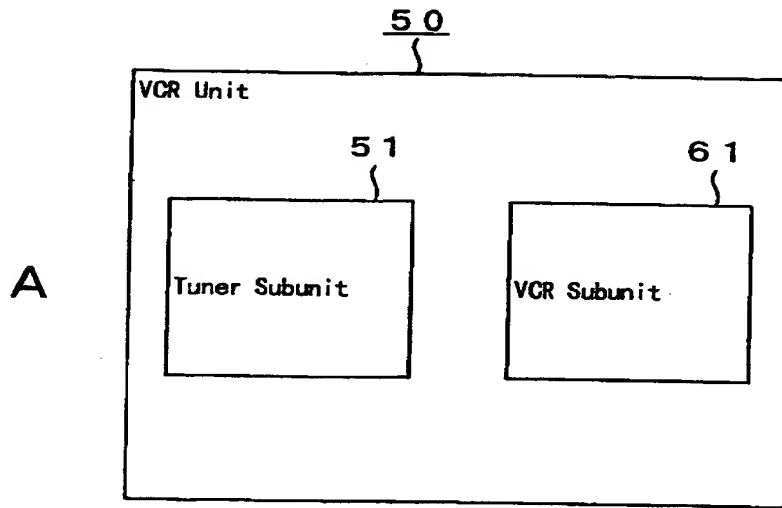
【図 2 6】

Value	output status
0000	effective packet output
0001	not effective
0010	insufficient resource
0011	ready
0100	virtual output
0101-1111	reserved

【図 2 7】

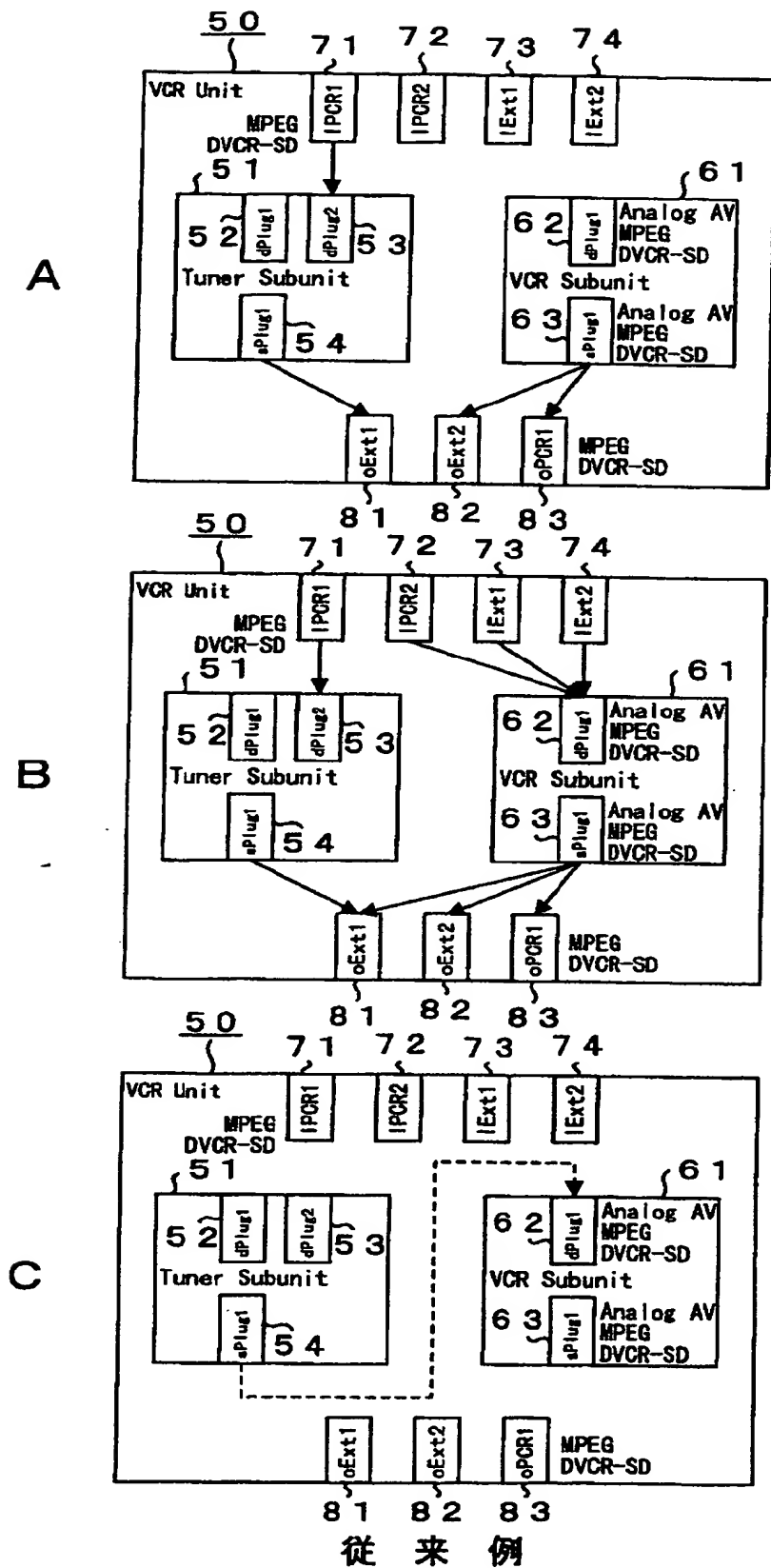
Value	signal status
000	Identical
001	De multiplex
010	Plue OSD
011	Mixed
100	Converted
101	Processed (any other reason)
110	Invalid
111	reserved

【図 2 8】



従 来 例

【図 2 9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 IEEE 1394 方式などのバスで接続された機器の間で、各機器に関するデータの収集が効率良く行えるようにする。

【解決手段】 所定のバスラインに接続された機器に関するデータを、バスラインを介して伝送する機器データ伝送方法において、機器の内部で接続可能な接続情報を所定のテーブルとして一括して保持し、その保持したテーブル内の全て又は一部の接続情報を、バスラインを介した所定のフォーマットのプロトコルの伝送に基づいて、他の機器に伝送するようにした。或いは、所定のフォーマットのプロトコルで、機器が備える入力部又は出力部と、内部の機能処理部とを指定するデータを、バスラインを介して他の機器から伝送することで、該当する機器の入力部又は出力部と、内部の機能処理部との接続のステータスに関するデータを、バスラインに送出するようにした。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	平成11年 特許願 第345354号
受付番号	59901184433
書類名	特許願
担当官	第八担当上席 0097
作成日	平成11年12月 9日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100080883

【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿1-8-1 新宿ビル 松隈
特許事務所

【氏名又は名称】 松隈 秀盛

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000002185]

1. 変更年月日

1990年 8月30日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都品川区北品川6丁目7番35号

氏 名

ソニー株式会社